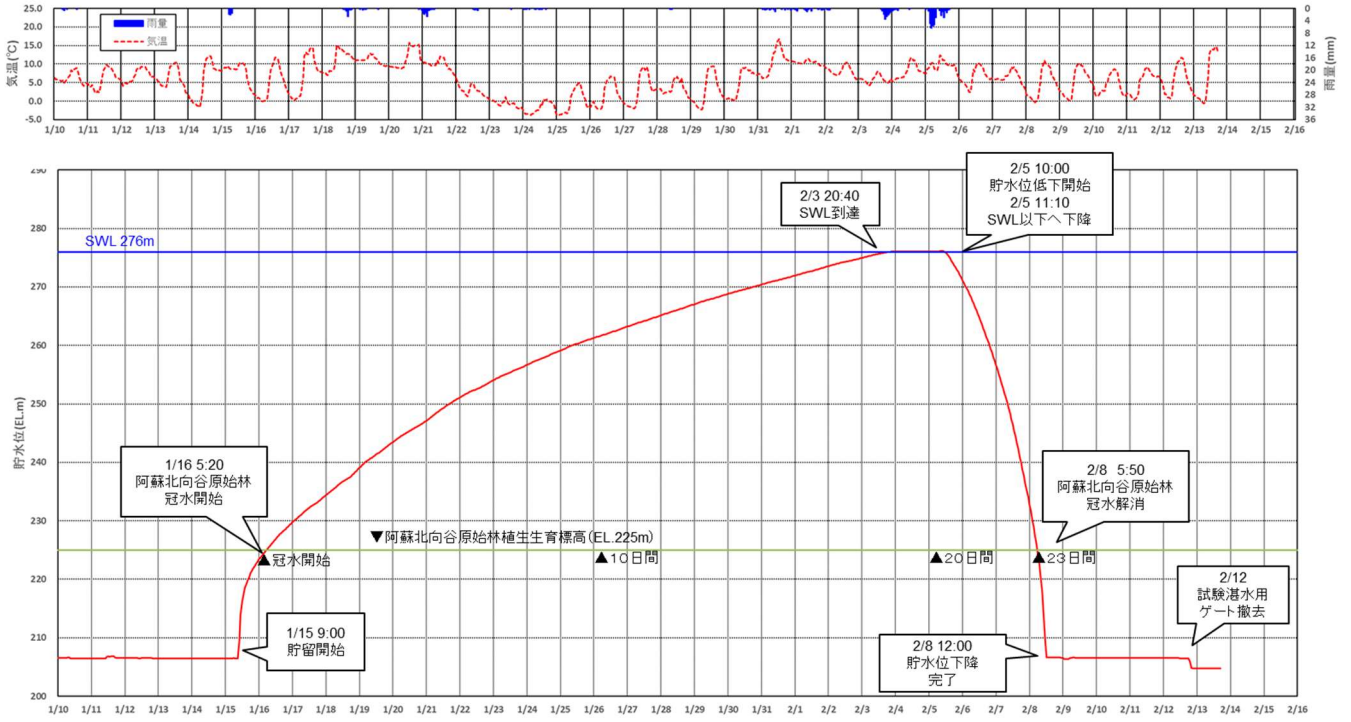


## Q7-2. 立野ダム試験湛水では、堤体や貯水池周辺の安全性はどうだったのでしょうか。

- 立野ダムの試験湛水は、堤体完成後の令和5年6月より開始し、令和5年7月出水時には、ダム容量の約16%に相当する水を一時的に貯留しました。
- 令和5年12月には、すべての関連工事が完了したため、令和6年1月より放流孔を鋼製ゲートで閉塞し、令和6年1月15日から貯留を開始、令和6年2月3日にサーチャージ水位に到達し、水位を1日（24時間以上）以上保持してダム堤体、貯水池斜面に異常がないか確認した後、貯水位の低下を開始し令和6年2月8日に元の河川の水位となりました。（図-1）
- 令和5年6月以降の試験湛水期間中は、基礎排水孔、継目排水孔などの排水量、揚圧力、堤体の変位量、貯水池周辺地山などの計測・監視を綿密に行い、堤体・基礎地盤、貯水池周辺地山の安全性に問題ないことを確認できました。
- なお、これらの結果については、『第4回試験湛水検討委員会』にて報告し、各分野の専門家に審議いただき、情報を開示しています。
- 詳しい資料については[こちら](#)に掲載しています。



図—1 試験湛水実績